

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書

1、概要

報告日	平成 26 年 3 月 31 日
報告者	城 貴志
助成団体名 (所属団体名)	特定非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター
団体住所	〒 525-0032 滋賀 都道府県 草津市大路2丁目11-15
団体電話番号	077 - 566 - 8266
代表者 (助成対象者)	理事長 北村 克家
助成対象事業	ぎょうれつ本舗
事業(助成)期間	平成 25 年 4 月 ~ 平成 26 年 3 月
事業費総額	506,895 円
助成金総額	500,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

【事業目標】

・住み慣れた地域で障害のある人も高齢の方も誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す。今年度は物販だけでなく地域に安心と便利を障害のある方の働きを通して届けることを目標とする。

【事業実施概要】

- ・販売拠点の拡充
(朽木針畑地区、高島竜地区など22か所)
- ・個人ニーズに対応した移動販売(地域限定)
- ・品揃えの充実
(自主惣菜品の品目増、お弁当の注文、御用聞き)
- ・利用者ニーズ把握アンケートの実施
- ・利用者が生産している野菜の循環(試行的)
- ・スタッフ向け勉強会
(商いについて、交通マナー、人権学習など)
- ・市内外イベント参加による事業アピール
(市民フェスタ、おこしやすBAPなど)
- ・市内外における講演活動による事業アピール
(社会福祉学会)(京都新聞、KBSラジオ、本に掲載「買い物難民をなくせ」)
- ・視察研修受け入れ
(あいとう福祉モール、守山市早野学区社協)

【事業内容】

棕川・宮前坊ルート(第1・3金曜日)

集客3~7名(一回) 客単価800円~1000円

棕川では昨年度に引き続き販売をしているため地元住民との親密さが増してきている。到着に少し遅れてしまった時は、「道中で何かあったか」と大変心配していただくなど、信頼関係が構築されている。

朽木針畑ルート(第1・3水曜日)

生杉 集客1~3名(一回) 客単価1000円~1500円

中牧 集客3~5名(一回) 客単価500円~800円

平良 集客2~5名(一回) 客単価500円程度

小川 独居高齢者2軒 客単価1000円程度

本年度より新しく追加したルート

峠を2度ほど通り車同士のすれ違いも困難な個所があり、2回ほど前方で脱輪してい

る車を発見し、スタッフみんなで車を引き上げる手伝いをした。
中牧では音楽を流し楽しく販売している関係もあり、販売の様子を詩にして郵便で事業所におくって下さった。
詩を頂いた方は足が悪くてなかなか行くことは出来ないが一度拝見したことが脳裏に焼き付いていると話されている。現在は息子さんに買い物したいものをメモに書いて渡し購入しておられる。
山奥なので次回に持ってきてほしいものをお伺いして届ける。
話の中から職員の母親であることが分かり近況を伝えている。

グリーンレイク方面（第2・3水曜日）

集客固定客2～3名（一回） 客単価500円～800円
後半よりグリーンレイク奥で販売することになり、グリーンレイク内で2か所販売している。80代独居高齢者のお宅2軒をピンポイントでお伺いしている。買い物の場を提供することも大きな役割であるが、それ以上にお話しされることを楽しみにされている。
ぎょうれつ本舗が目指す地域作りがそこにある。

藤波園（第4水曜日）

集客10～20名（一回） 客単価1000円程度
年明けノロウイルス、インフルエンザの流行により外出が出来ないため、月1回の訪問を月2回に増やしている。とてもたくさんの方が待っている

【ぎょうれつ本舗としてのイベント参加】

- ・手仕事マルシェ
- ・エコエネルギーのイベント（市・県議員多数来られ興味を持ち話を聞かれる）
- ・高島市高島文化祭（市長が来られ話を聞かれる）
- ・世代交流センター夏祭り（声をかけてくださる方が多数おられる）
- ・マキノ駅こうなったらいい市

【個別対応】

- ・安曇川町本庄2か所
- ・新旭町新庄1か所（社会福祉協議会より紹介）
- ・安曇川町下古賀 視覚障がい者の方

【台風の後の様子】

- ・朽木地区はしばらく道路の状態でいけなかったがしばらくして伺うと自分のところのことより、安曇川地区のことを心配されており元気にされている。

【従事者】

- ・車両2～4台、スタッフ4～12名（常時）
- ・就労支援事業所 2か所
- ・NPO法人 1か所
- ・民間（多賀町より）

【収益】

- ・売上 約1,688,000円
- ・経費 約1,012,000円（車両、燃料費、人件費除く）
- ・利益 約 676,000円

3、事業成果

【地域】

- ・ぎょうれつ本舗で買い物するだけでなく、スタッフとのコミュニケーションを楽しむ利用者が増えた。
- ・地域の中で人が集まりにぎやかになることで、人と人とのつながりができ、障がいや高齢・子ども関係なくコミュニティーの良さが再確認されている。
- ・障がいのある方が働く姿が、高齢者の生きがいや、生活意欲向上のきっかけになっている。
- ・「障がいを意識しない」という言葉が聞かれるほど、地域社会の一員としての障がい理解が生まれている。

【スタッフ】

- ・地域や人から必要とされていることを感じることで、やりがいと誇りを持って仕事をする姿が見られる。
- ・地域で行き場所がなかった方が働くことを通して地域社会に参加できるようになってきている。
- ・衛生面や生活習慣に意識が向くようになってきている。
- ・「一般の社会で働きたい」など、自信や達成感が新たな希望につながっている。

【その他】

- ・福祉関係者に認知されることで、地域支援ネットワークの一役を担えるようになってきている。
- ・ぎょうれつ本舗への視察研修が来るようになった。
- ・ぎょうれつ本舗への講演依頼が増えてきた。
- ・活動に興味を持たれている団体が増えてきている。

4、今後の課題など

【問題点】

- ・ぎょうれつ本舗が物販だけでなく地域課題の解決やコミュニティーづくりを目指していることが浸透していないため、地域から生活課題などがあまり聞こえてこない。物販以外の方法でアピールしていく必要がある。
- ・物販だけでなく収益を確保していく仕組みや付加価値など持続可能な仕組みを考える必要がある。
- ・商品（乳製品や食肉など）の充実。

【課題】

- ・事業継続の中で培ってきた地域住民との信頼関係を充実強化していき、お互いがなくてはならない存在となるために、必要なものを届けていくだけでなく体の心配や日常生活の中で困り事などを障がいのあるスタッフと職員が手分けして行っていくことが必要である。また、他団体とのネットワークや情報を有効活用し、生活全般を支えることが出来る新たな共助・協働の仕組みを構築していくことが重要である。
- ・障がいのあるスタッフがぎょうれつ本舗を巣立ち、社会の中で必要とされ働く姿を地域に見せていくことも必要である。